

横山ミチル

母性

のぬくもり

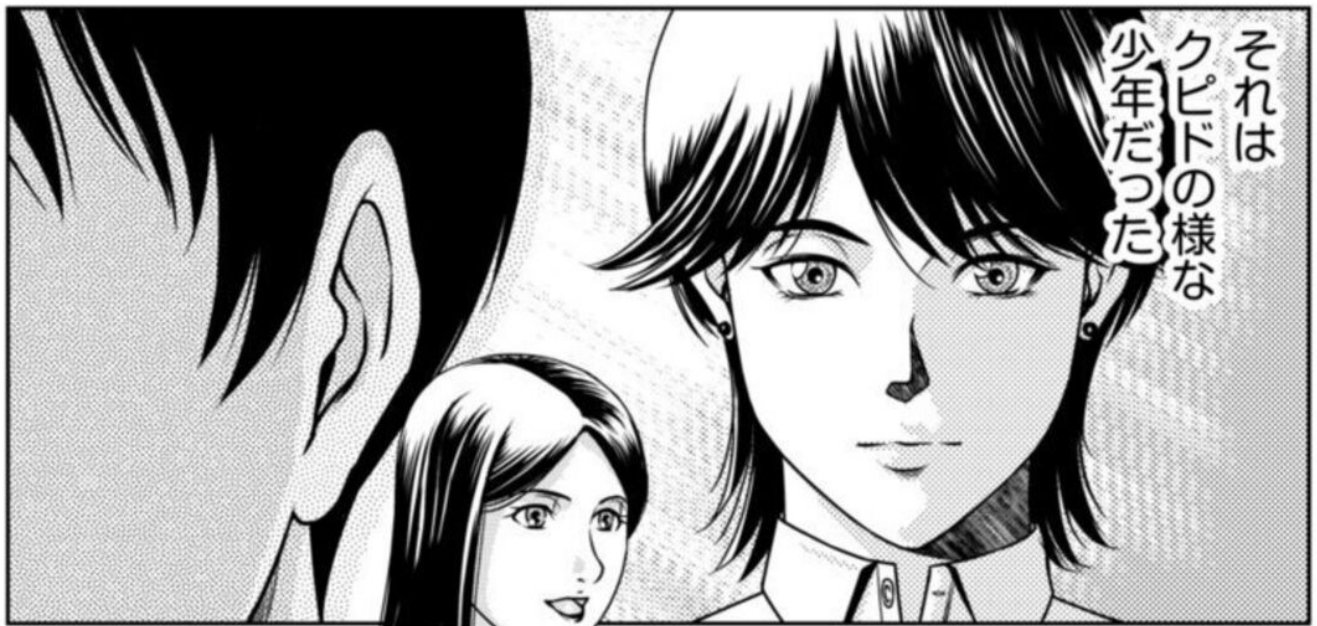
成年
コミック

1



アシオナcomic





それは
クピドの様な
少年だった



いらっしやい
散らかってて
悪いわね

ただいまー
母さん
友達連れて
きた

おじやまします
松村桂樹けいこうです









エッ！
背中見せて

大丈夫です
取っ手に打った
くらいですから



青あざに
なってる

それよりこの
細かい傷はなに？



ご両親に
お詫び
しないと

いいですよ
そんなこと！
これくらい
気にしませんから



まさか虐待？！

もういい
ですか？

あうん
ごめんなさい
やっぱり青あざに
なってるわ

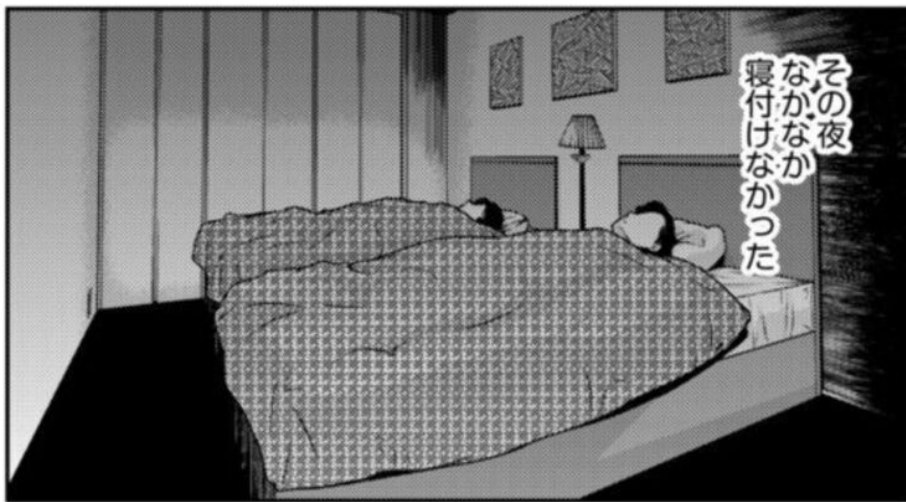


ハイ
これQRコード

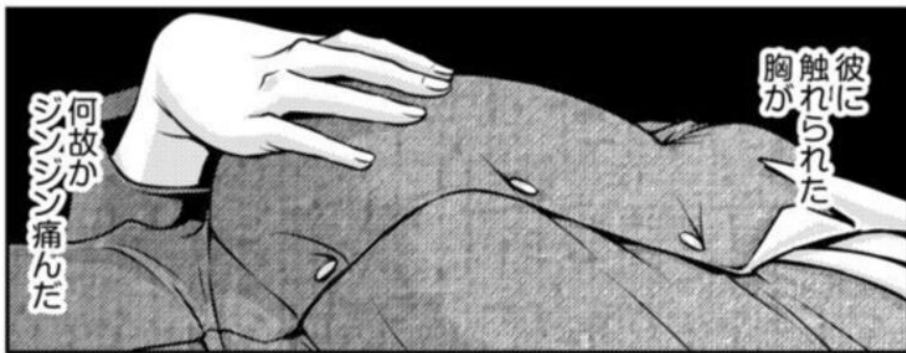


そう言われても
…なら連絡先
くらい教えて
電話するわ

いいですから
本当！
そうだと僕と
ラ●ン交換
しましょ
その画面見せ
ますから

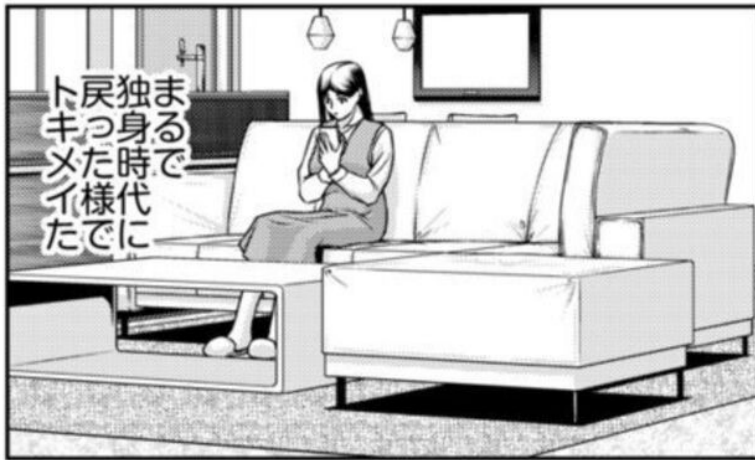


その夜
なかなか
寝付けなかった



彼に触れられた
胸が

何故か
ジンジン痛んだ

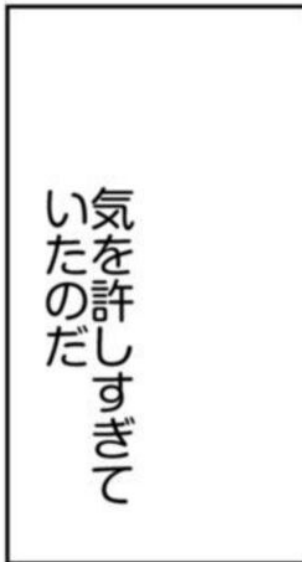


まるで
独身時代
に戻った
ように
トキメ
キた

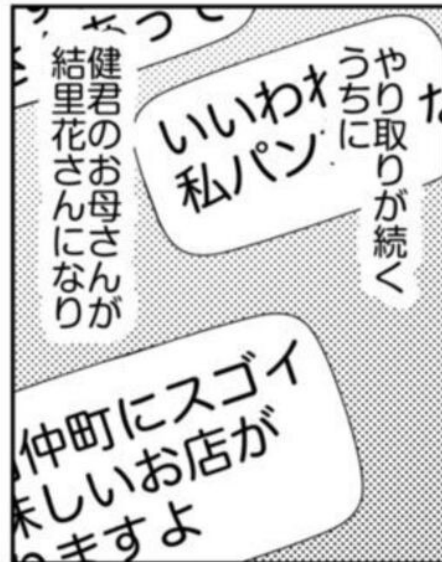


結局ご両親への
謝罪はうやむやに
なつたが

その時のやり取りで
分かったのは
彼のママさとは
気遣いだ



気を許しすぎて
いたのだ



健君のお母さんが
結里花さんになり

いいわね
私パン

やり取りが続く
うちに

仲町にスゴイ
美味しいお店が
ありますよ







この香りが
頭が痺れる



冗談じゃ
なければ
いいんですよ

ふざけないで



って
何やってるのよ
冗談は
御止しなさい



アア

抵抗なんて
ムダだった



友達の母親に
なに考えてるの！





僕が色々
教えて
あげるよ

おふ

オッ

オッ



あれ？
結里花さん
潮吹き
初めてだった？

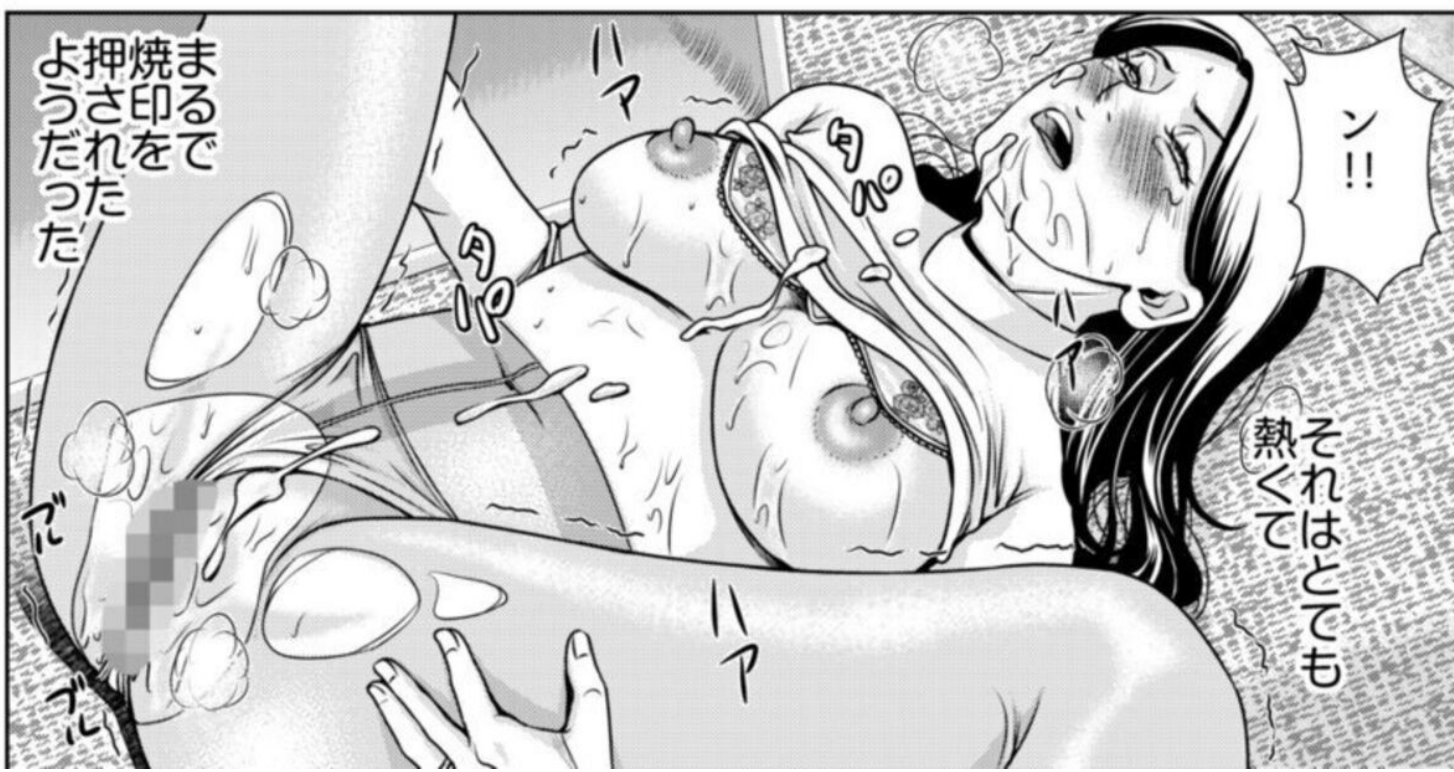
思ったより
経験不足
なんだね



何度イカされたか
分からない

彼が射精
するまで

!!
イク



ん!!

それはとても
熱くて

まるで
焼印を
押しだした
よ

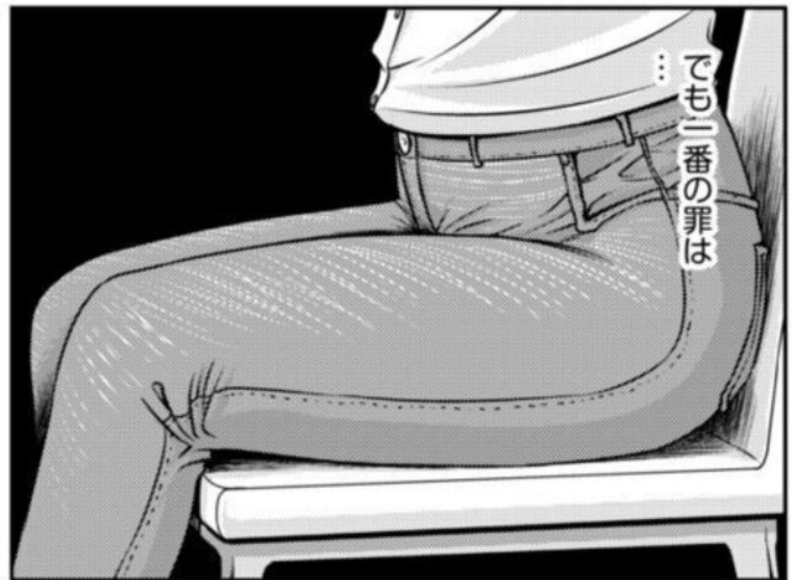
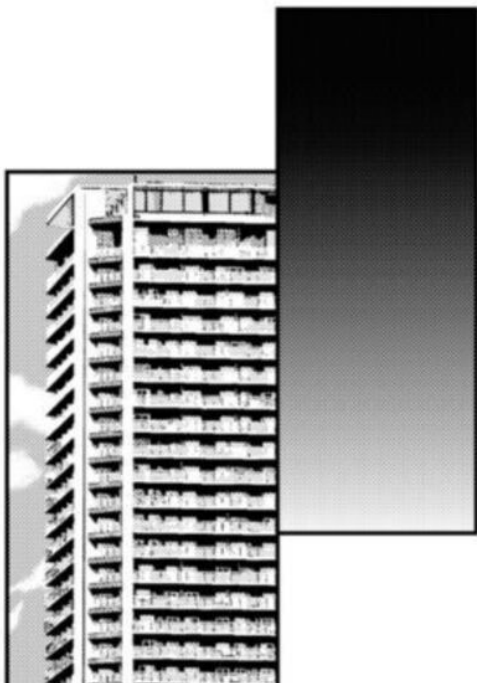
ヒア

グッ

ヒア

グッ

グッ



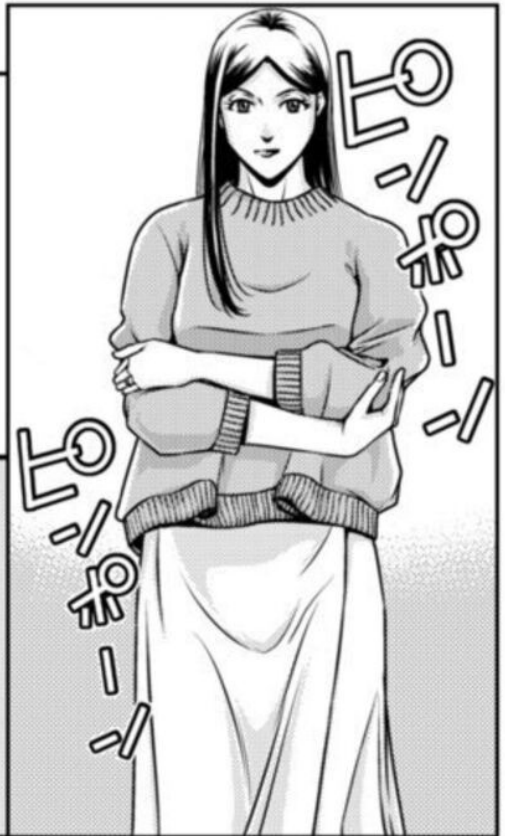


通話 終了

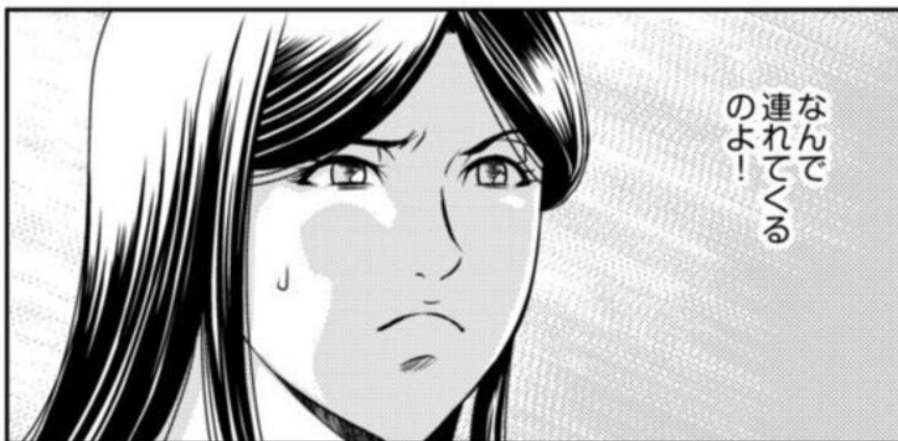


まだ学校があるだろう
（時間に）

あれから
彼は何度も
来た



ただいまー



なんで
連れてくる
のよ！



私は一度も
出なかった



すみません
トイレのトイレットペーパーの
替えてって

ごめんなさい
用意するわ



何考えてるのよ
健がいるのに!

何度も来たのに
入れてくれなかった
せいですよ

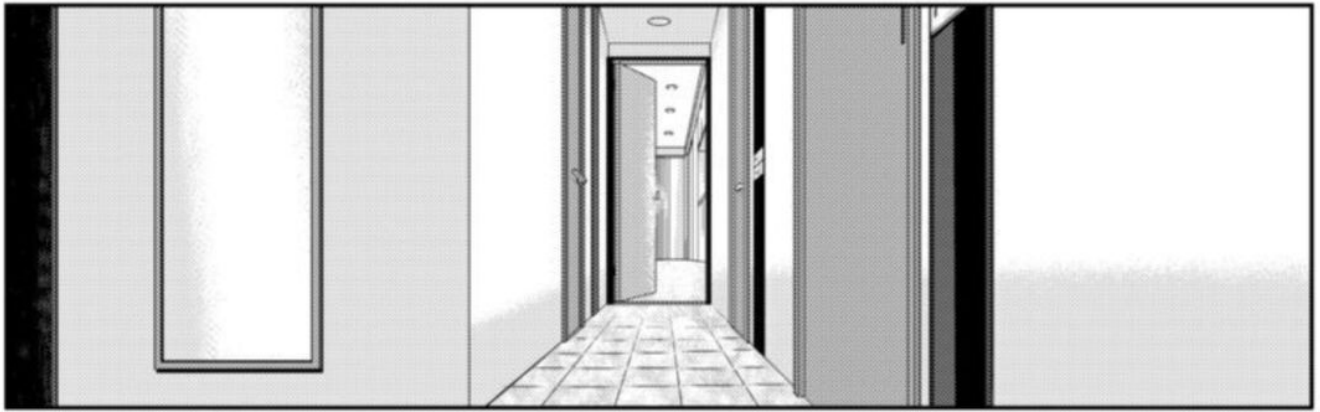


早くしないと
健君に怪しま
れるから
さ パンツ脱いで

何言って!

バレるよ?





僅かな抵抗心も消えてなくなる

でももっと頬を窄めて包み込む様に吸ってくれるのが僕は好きです

言われたまま従順に従ってしまっ

こうかしらコレが好きなのね

それじゃ夫婦の寝室に行きましょうか

分かっていたもう戻れないって

2回の逢瀬で

イク！このまま膣で出すよ

ああ！

彼に膣で射精されたとき

嫌がらないってことはいいんだね

あああ！

デッる

んああああ♡



家ではもちろん

アウ

ア

ハン

ア



はっ

それから
夫と子供の目を
盗んで
何度も逢った

はっ

ハッ

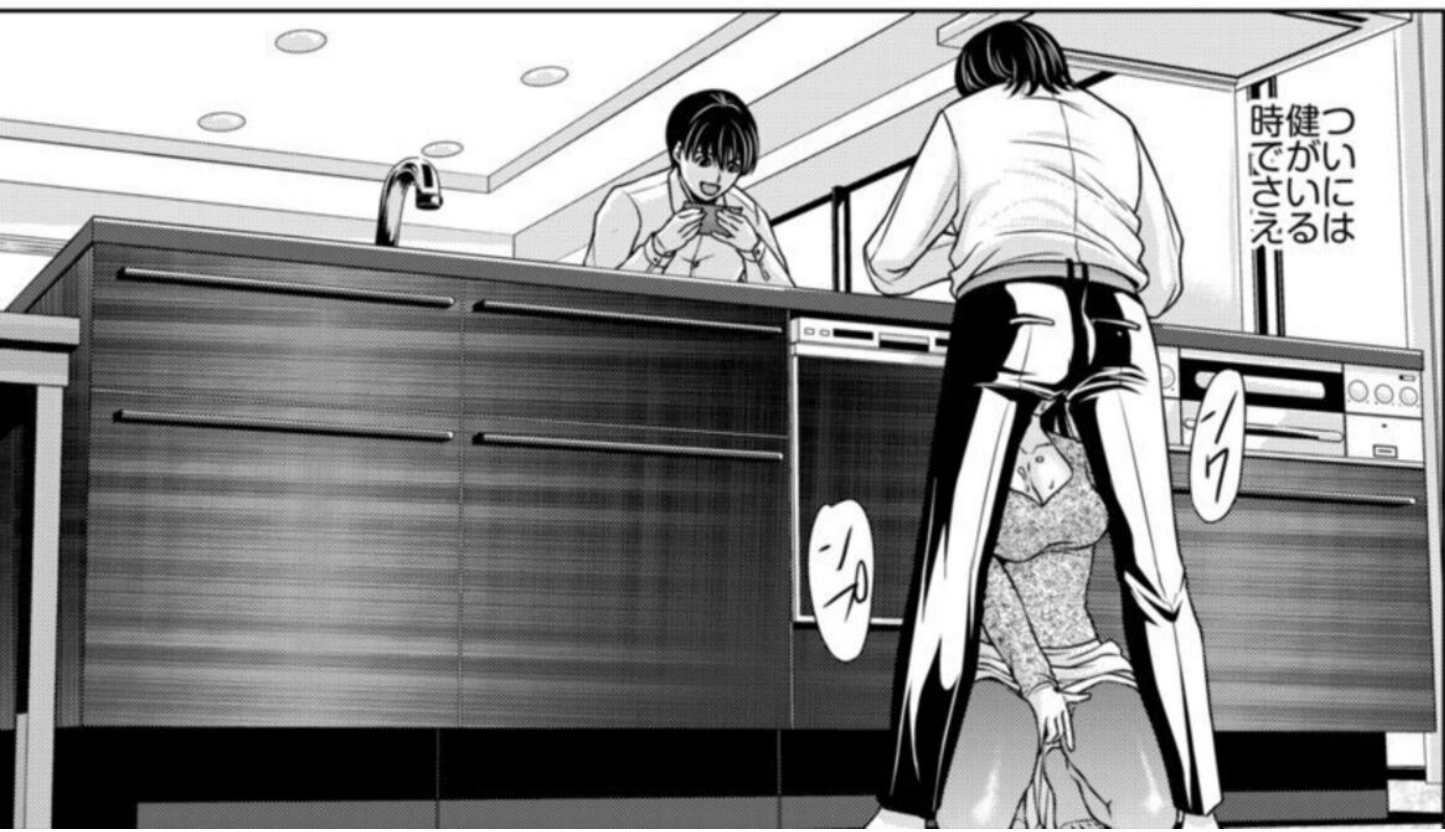
ハッ



ラブホテルで

ハッ

ハッ



つ健
健が
いい
には
時で
さい
える
は

ハッ

ハッ



一か月
会えないなんて
ひどいわ!

テスト期間
だったんだよ
流石に勉強
しないかね



私は完全に
虜だった

くっくっく

くっく
くっく



ひどいなあ

まあ子供の
部屋で
その友達と
エッチする様
人だもんね



健君だって
勉強してた
でしょ?

知らないわよ
そんなの



前戯はいいから
直ぐちようだい

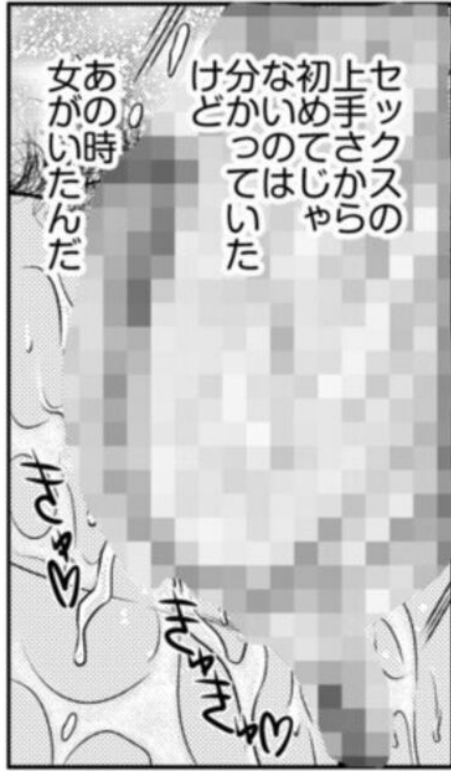
今日会えると
いうので
朝から濡れ濡れ
なの♡

くっく
くっく



そんな女に
あなたでは
しょ





あの時
女がいたんだ

セックスの上
手さから
初めてじゃ
ないのには
なにかは
分かってた
けど



あの小さな傷は
女の爪痕だ

ああそっか



私だけよね?

今はいないのよね?

は♡

んば♡

あ♡



何?言っ
てなん
でも
してあ
げるわ



ねえや
つて
みた
い事
が
ある
ん
だ
け
ど



出来るわけ
ないじゃない！

バカ言わないでよ
自分の息子と
なんて！



エツ?!



健君と3P
したいな



そんなの…

そんな…



エエ!!

じゃあ結里花とは
もう会わない

僕と健
どっちを取るの



あなたよ！
桂樹君よ！



キュン♡

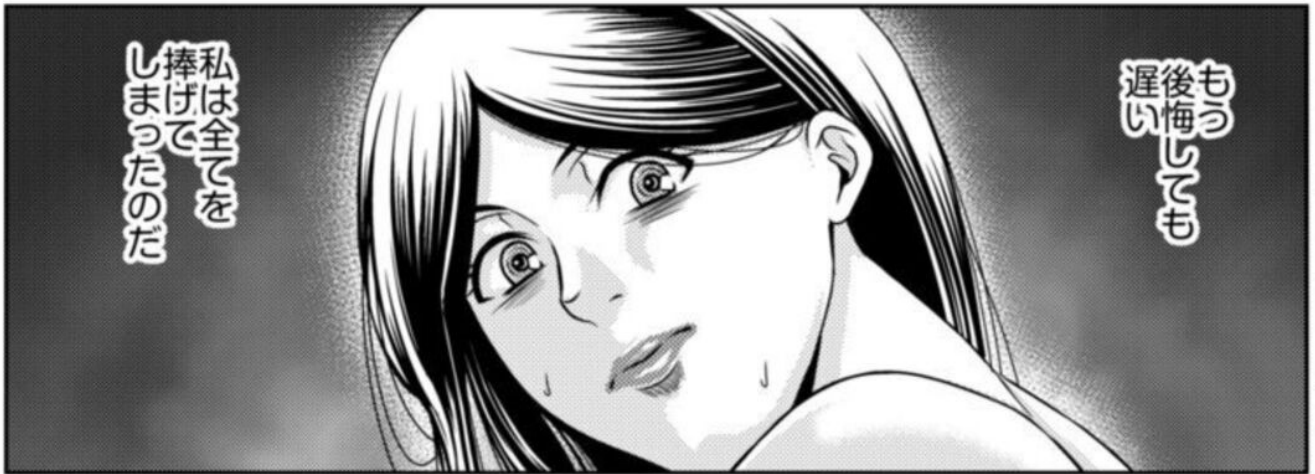
キュキュ♡





ちゃんと僕が
開発して
慣らして
あげるから

母親から
雌豚に



もっ
後悔して
遅い

私は全てを
捧げて
しまったのだ



オオッ

この天使の様な
悪魔の少年に

オホッ
♡

アシオナcomic

母性のぬくもり(1)

著者 横山ミチル
レーベル アシオナcomic

- ★この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには一切関係ありません。
 - ★本書の一部あるいは全部を無断で複製、転載、上映、放送、配信、送信したり、ネットへのアップロードなどは、著作権法上での除外を除き禁止します。
-